

全国公立学校退職教頭会

会報

第63号

平成28年8月31日

東京都港区愛宕 1-6-7
愛宕山弁護士ビル 403号

発行責任者
会長 山浦 朝日

『学校行事』の持つ教育力

全国公立学校退職教頭会 会長 山浦 朝日

小学生がスマホを持っている。中学生がSNSでつながっている。教室にはパソコンがある。IT技術の進歩と日常生活への浸透を実感しながら、(私はまだガラケー)学校のことを考えてみる。

かつて「頭の良い子」と呼ばれたのは、「多くの情報を正確に記憶し、即座に引き出せる子」であった。学校は、その意味で、教科書という媒体を使いながら、教師が生徒たちに情報を伝達する場として機能していた。教室に多くの生徒を詰め込んで授業をしたのは、伝達効率を上げることがねらいであった。やや不謹慎かもしれないが、荒っぽく言えば、学校の中心的な働きとは、そういうものなのではなかったのか。

近年、情報機器を使いこなせるようになると、大量の正確な情報は、外部記憶装置から引き出すことが出来るようになってきた。学校と教師の果たすべき役割に、当然ながら、変化が起こっているとみればきだろ。『デジタル教科書』も導入される。

ここで、話を転じてみる。

ある会社の管理職が、こんなことを聞かせてくれ

た。『今の学校は、何を教えているんですか。若い社員の中に、その場の状況を感じ取って動くことのできない者が多いんです。注意すると、ちゃんとやってくれなければ無理です、と返ってくる。どう指導したらよいか悩んでいます。』

知識は持っているけれど、指示されなければ動けない、いわゆる、気の利かない若者が増えているということだろう。

会社の上司を悩ませてしまう若者が巣立つ原因の一つに、学校行事の削減があるように思えてならない。授業時数確保という視点は、必要であり、不可欠だと思う。同時に、学校行事によって培われる教育的価値(人間関係調整力の育成)を学校教育の中で追求する観点も忘れてはならないだろう。

学校行事の中には、その企画立案が学校と教師主導であるべき「儀式的行事」もあるが、学校や教師によって、その活動の枠組みは決められても、企画や準備段階から生徒が主体的に関われる『学校行事』も少なくない。

任せられた中で、自主性が重んじられて、準備や



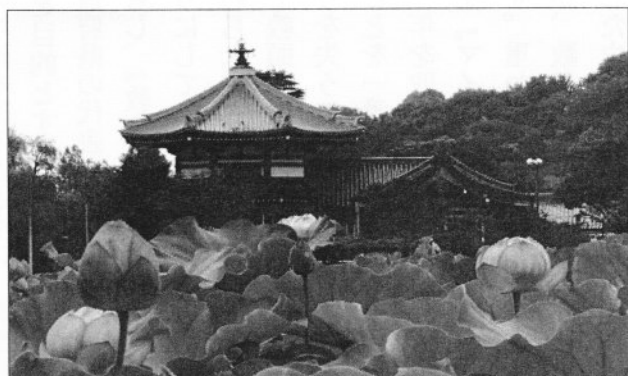
実行場面で、集団への所属感や連帯感が深まる時、そこには、授業にはない教育的効果があったように思う。とは言え、残念ながら、その効果を数値的に示すことはできない。その効果は、即座に現れるよりも、数年後、十数年後に、「あの時の経験が役立つているのかも・・・」という形になるのだろう。

「楽しかった(苦しかった)思い出」として語られることの多い『学校行事』が、本当に思い出だけのものなのかと問いたい。限られた時間の中で、学校は、いくつもの教育課題を果たさなければならぬ。確かに、時間は足りない。足りない部分をIT技術が、十分に補ってさえくれれば、IT技術では補えない『人間関係調整力』という教育的価値を学校で身につけさせることが出来ると思う。

世の中は、『急がば、回れ』。学校には、学校にしか出来ないことがある。その一つが、『学校行事』。

学校行事の果たしてきた教育的価値を再認識する時が、今来ている、と確信している。

みなさんは、どうお考えだろうか。



上野恩賜公園 不忍池
蓮の花(写真山浦氏)